

# 東江一紀 名訳・珍訳集 ～補遺～

●造語——くっきりとイメージを伝える言いまわしを創造する（出典はいずれも『野蛮なやつら』角川文庫）

金満美女

Rich and Beautiful

うすらとんかち氏

chucklehead

御曹司軍団

the Juniors

剛根、天を衝<sup>つ</sup>く槍<sup>やり</sup>のごとし。

Taproot time.

原文よりくわしくて、迫力がある。

●語呂合わせと、笑い——ユーモアは、東江翻訳に欠かせない要素

「糞便は勘弁！」

"We Stop the Plop"

『ライアーズ・ポーカー』（マイケル・ルイス ハヤカワ文庫）

「マンハッタンの歩道を糞害から守るため、犬の尻につける小さな箱を作るという新事業（うたい文句は「糞便は勘弁！」）」  
という、長い一文のなかの、なんでもない一節なのに、原文どおりしっかり脚韻を踏んでいる。

注意！ 明敏なる保持を有しておりませんアース線の、取るわ付けるわ、命死ぬる望みあるかも。

WARNING! To take and put the earth wire not having a smart holding,  
a fatal eventuality may incur.

『デイヴ・バリーの日本を笑う』（デイヴ・バリー 集英社）

日本のオートバイがアメリカに輸出されるようになったころ、優秀なオートバイについていた、「スワヒリ語しかしゃべらない人間が日本語から英語に翻訳したとおぼしきマニュアル」からの引用という設定。  
あるある！ と、叫びたくなる（笑）。

## ●表情&感情を訳す

小さな笑みを顔によぎらせる。

A fleeting smile came and went.

『罪の段階』(リチャード・ノース・パターソン 新潮文庫)

笑みをこしらえようとする。

She tried a smile.

『ベルリン・レクイエム』(フィリップ・カー 新潮文庫)

笑みを貼りつかせた

held a smile on her face

『ベルリン・レクイエム』(フィリップ・カー 新潮文庫)

「笑み」三題。単調になりがちな笑顔の表現を、豊かに訳出している。

同情と励ましとのあいだを、気持ちが揺れ動いているようだった。

Paget watched her choose between sympathy and encouragement.

『罪の段階』(リチャード・ノース・パターソン 新潮文庫)

ハスラーがさがるような表情で肩をすくめる。

Hassler gave a helpless shrug.

『罪の段階』(リチャード・ノース・パターソン 新潮文庫)

訳しにくい"helpless" をていねいに訳すことで、感情が立ち上がってくる。

哀れなピエールが、助手席から上半身をこちらへよじり、あられもない慨嘆の表情を作って、骨張った頭を左右に振った。

Poor Pierre, half-turned in the front seat, shook his bony skull in unashamed grief.

「馬捨での緯度」(ピーター・マシーセン『黄泉の河にて』作品社)

格調高く、同時に表情が見えるほど生々しく。

## ●一語もゆるがせにせず訳しきる

平然とした態度の奥に、残虐な冷たさが感じられた。

There was an almost casual cruelty in it.

『罪の段階』(リチャード・ノース・パターソン 新潮文庫)

casual cruelty をていねいに訳している。

まさかという叫び、押し殺した問いかけ、顔と顔を見交わす際の衣擦れと椅子の きしみ……。

shocked exclamations; murmured questions; the rustle of people turning to each other.

『罪の段階』(リチャード・ノース・パターソン 新潮文庫)

英語は、名詞と形容詞でどんどん説明を足してもうるさくならない言語。それを全部訳出しながら、自然な日本語としてすると読ませるのは、さりげなく見えても高等技術。

## ●踏み込んで訳す——原文の意図を深くすくいとるとき、はっとする訳語が生まれる

パジェットは密やかな安堵を覚えた。

Paget felt his own relief.

『罪の段階』(リチャード・ノース・パターソン 新潮文庫)

own を「密やかな」と訳しているのがすごい。

だったら、フルコースじゃなくて、サラダとパスタでいいさ。

Then we'll do the short version, rather than the deluxe.

『罪の段階』(リチャード・ノース・パターソン 新潮文庫)

ラドはすでに地歩を固め、腕を撫<sup>な</sup>っていた。

Lado was established and ready.

『野蛮なやつら』(ドン・ウィンズロウ 角川文庫)

転落の危機をはらんだ坂道

a slippery slope

『犬の力』(ドン・ウィンズロウ 角川文庫) 上巻

なるほど "slippery" とはそういうことかと、目をひられる。

頭の芯がしびれるまで酒を飲んだ。

drank myself stupid.

『ベルリン・レクイエム』(フィリップ・カー 新潮文庫)

#### 表向きの理由

the polite reason

#### 本音の理由

the less polite reason

いずれも『ベルリン・レクイエム』(フィリップ・カー 新潮文庫)

polite を辞書でひいても、この訳語は出てこない。

脅しで言っているなどとは思わないほうがいい。

Don't ever doubt I'll do it.

『罪の段階』(リチャード・ノース・パターソン 新潮文庫)

直訳すれば「わたしがやるということを疑うな」。それでは物語にならない。小説の訳とはこういうこと。

気も動転して、<sup>ほ ほ てい</sup> 這う這うの体で堤を越え、林へと駆け戻る。

In panic, he clambered up over the riverbank and ran back to the trees.

「流れ人」(ピーター・マシーセン『黄泉の河にて』作品社)

clamber は、這いのぼること。「ほうほうのてい」という日本語の原義を教えられる。

ベンはこまやかで、チョンはつれなくて

ベンは優しく交わり、チョンは荒っぽくまくわう。

Ben is caring, Chon indifferent

Ben makes love, Chon fucks.

『野蛮なやつら』(ドン・ウィンズロウ 角川文庫)

訳し分けの妙。そして韻文の翻訳が好きだった東江一紀の、抑えた興奮が伝わってくる。

